

天文若手研究者の結婚観

富田晃彦

東京大学理学部天文学教育研究センター・学振研究員 PD

1996年夏の学校, 1996年8月27日, 立山

- 学位、就職、結婚3タイトルの中での「結婚」の特異性
- 「大学院生時代の結婚」における問題、を想定 ^{男28.5}_{女26.2}
学歴dependence

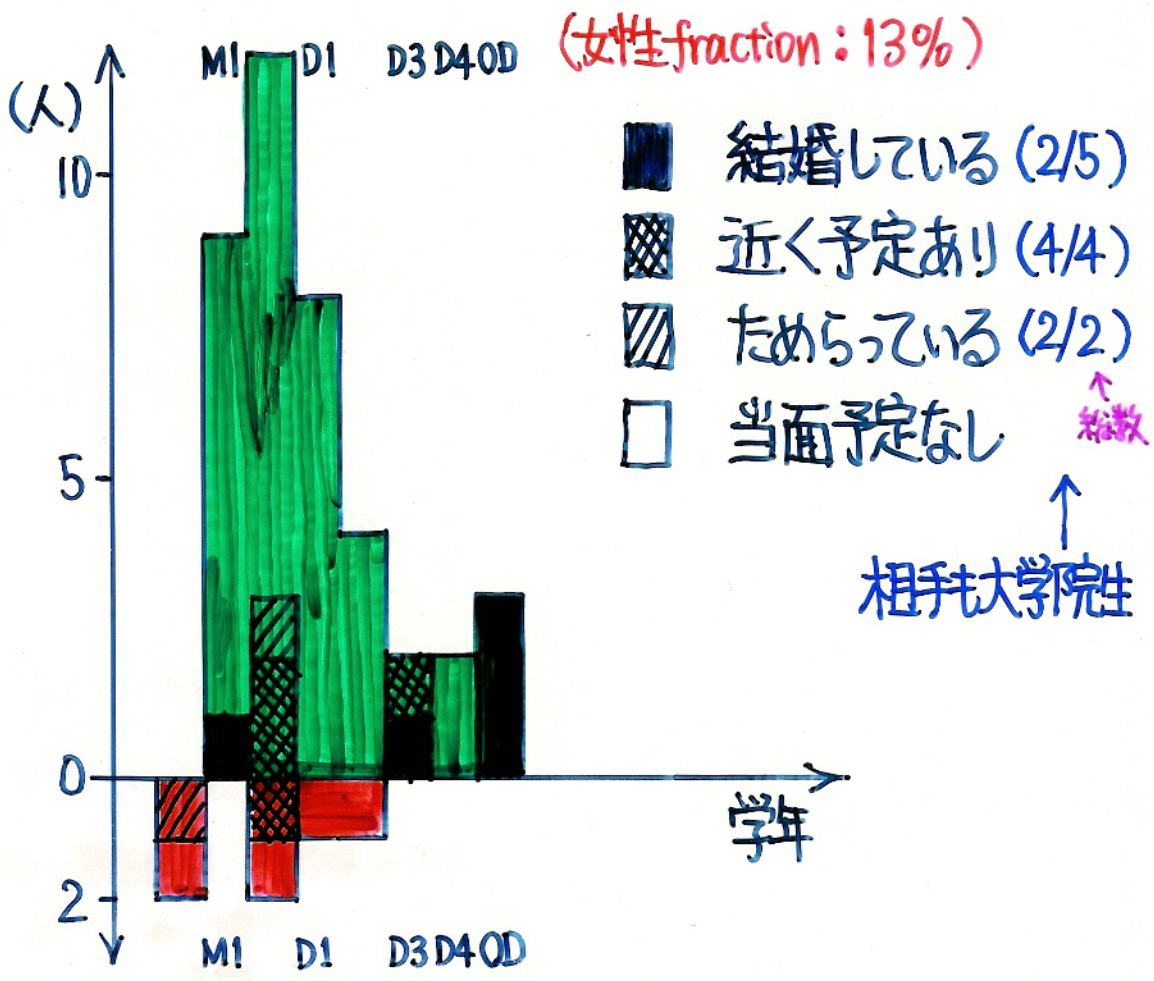
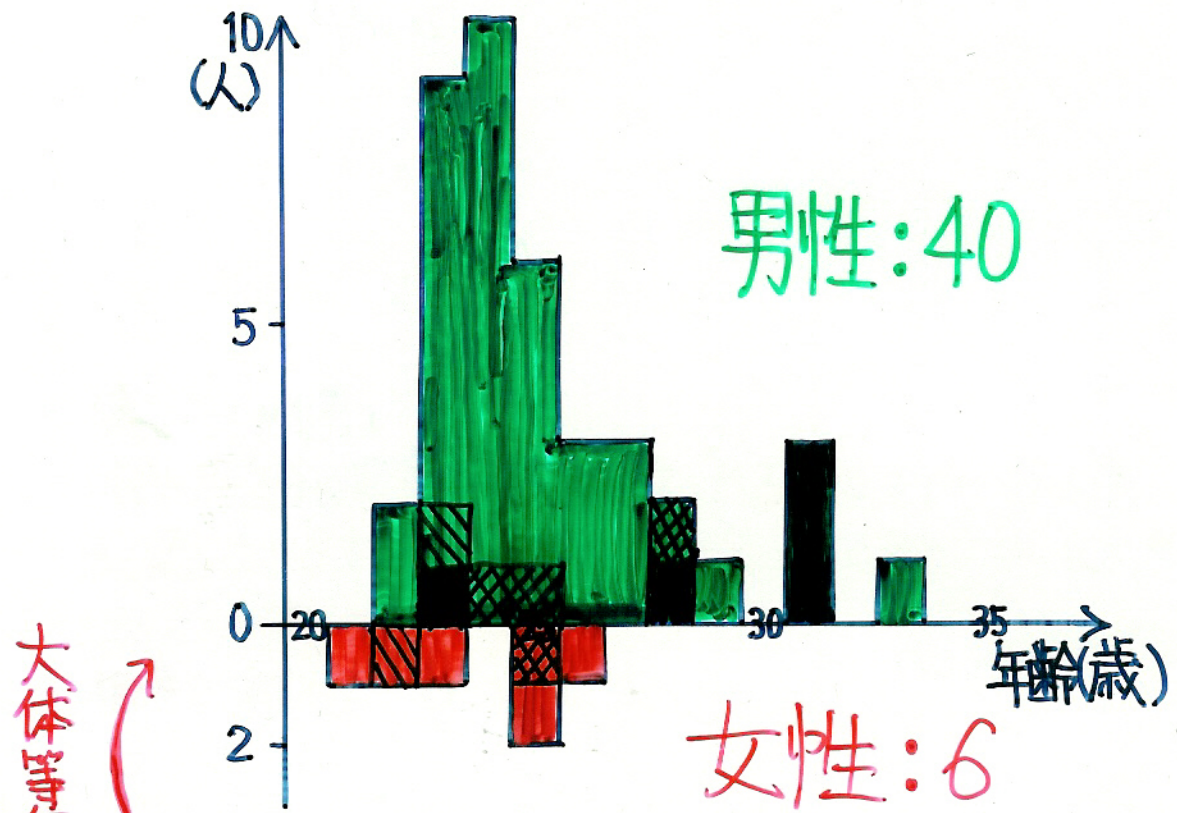
種々の困難に対して、どう考えているのか
どう対処してきたのか

↓
アンケート調査を実施

46名の回答を頂きました。ありがとうございました。
(協力: 中西康郎、西浦慎悟、児玉忠恭、奥村真一郎、敬称略)

- 年齢別、学年別、男女別、既婚未婚別に回答分布を報告
皆さんの感想、意見を期待します。

回答者の分布



Q4: 結婚した理由、など

大学院生時代に結婚した理由

- ・ 勢い (M1, 男)
- ・ 相手が自分の研究生活を助けると考えたから (D3, 男)
- ・ 結婚しないままだと、相手の親に言い訳できないから (OD, 男)
- ・ 住んでいる所が離れているから (OD, 男)
- ・ 相手が就職したから (OD, 男)

近く結婚する理由

- ・ 就職するので (M2, 男)
- ・ 一緒に暮らしたいから (M2, 男)
- ・ 遅らせる理由がないから (M2, 女)
- ・ 時間は有効に使いたい (D3, 男)

結婚をためらっている理由

- ・ 頼りない (B4, 女)
- ・ お金がない (M2, 男)

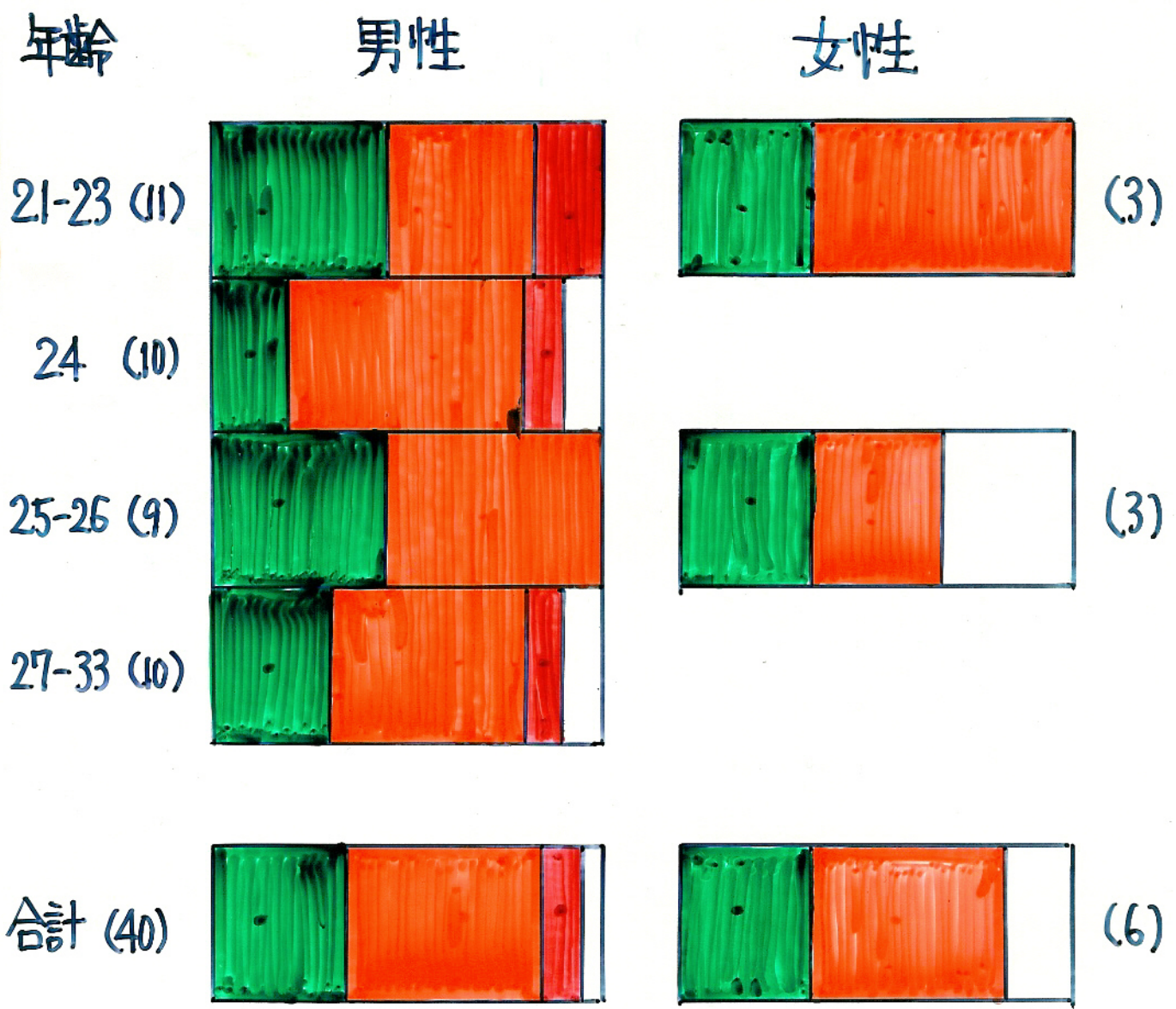
独身の理由(厚生白書) 男はあおなく、
 1. 適当な相手にめぐり会わない, 2. 自由や楽しさを失いたくない。
 ↳ 日本特有の事情に結びつ...

時間の問題

Q5: 夫婦で過ごす決めた期間に
仕事が入ってしまった

A:必ず仕事 B:多分仕事 C:多分仕事出る D:仕事出る E:?

11の下なし



男女による差なし
「必ず仕事」が1人もいなかった!

仕事の忠誠心は「学年が上がること」により薄れていく。

学年

男性

必ず仕事を断る

女性

仕事か家庭か?

B4-M1 (9)

多分仕事	多分家庭	
------	------	--

--	--	--

(2)

M2 (12)

--	--	--

--	--	--

(2)

D1-D2 (12)

--	--	--

--	--	--

(2)

D3-OD (7)

--	--	--

「必ず仕事」が一人もいない!

学年による差が出る

仕事を断り通せる(なる?) ↑

合計 (40)

--	--	--

--	--	--

(6)

男女による差、小

--	--	--

結婚している (5)

--	--	--

近く結婚 (4)

--	--	--

ためらっている (2)

--	--	--

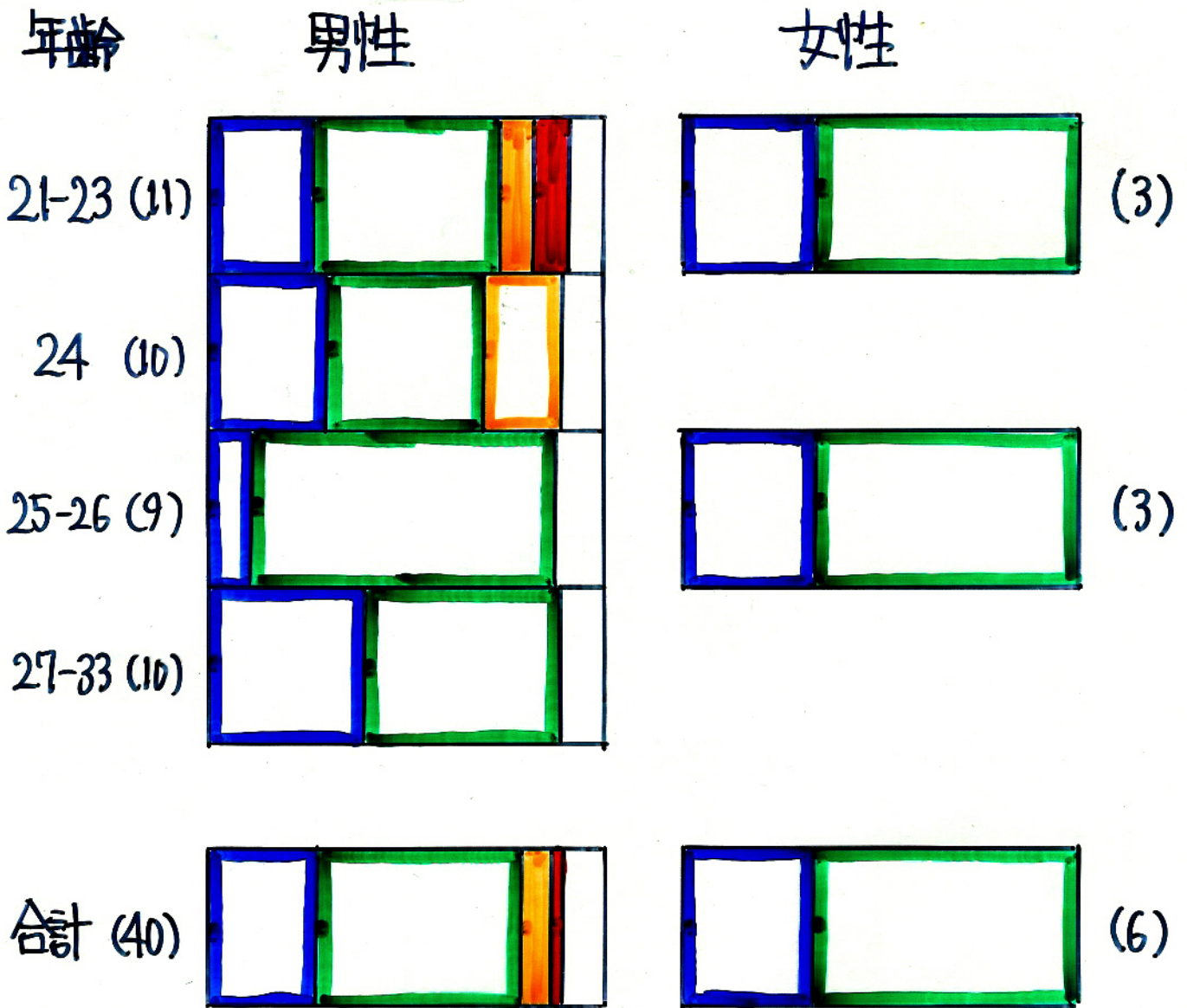
当面予定なし (35)

結婚すると、やはり家庭が大事に思われるか、家庭が大事と思っていた人間が結婚したのか。

Q6: 家事は？

A: する B: こそそ C: あんまり D: しない E: ?

この下なし



「家事はしない方」は若い男性で少数見られるのみ。

それと除けば年齢や男女による差はほとんどない。

→(厚生白書) 男性は意識上家事OKと言っても、実際はあんまりやらない
もっとも育児は積極的。

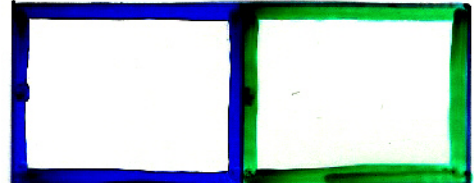
学年

男性

少ない

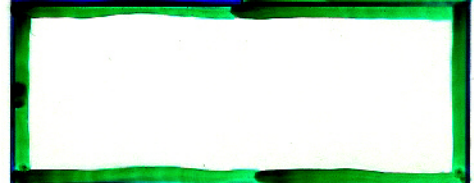
女性

B4-M1 (9)



(2)

M2 (12)



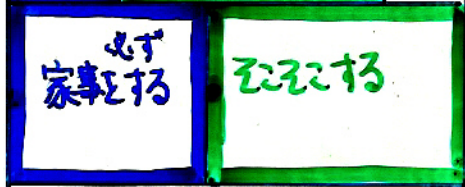
(2)

D1-D2 (12)



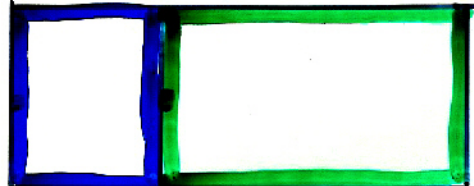
(2)

D3-OD (7)



「家事はない」は若い男性で少数見られる
→(厚生労働) 男性は実業ほとんど家事をしない。しかし育児はやる。

合計 (40)



(6)

男女差は大きい

結婚している (5)

近く結婚 (4)

ためらっている (2)

当面予定なし (35)

結婚している、していないによる
大きな差はなし

Q7: 結婚したら大学院をやめ 一般企業などへすぐ就職?

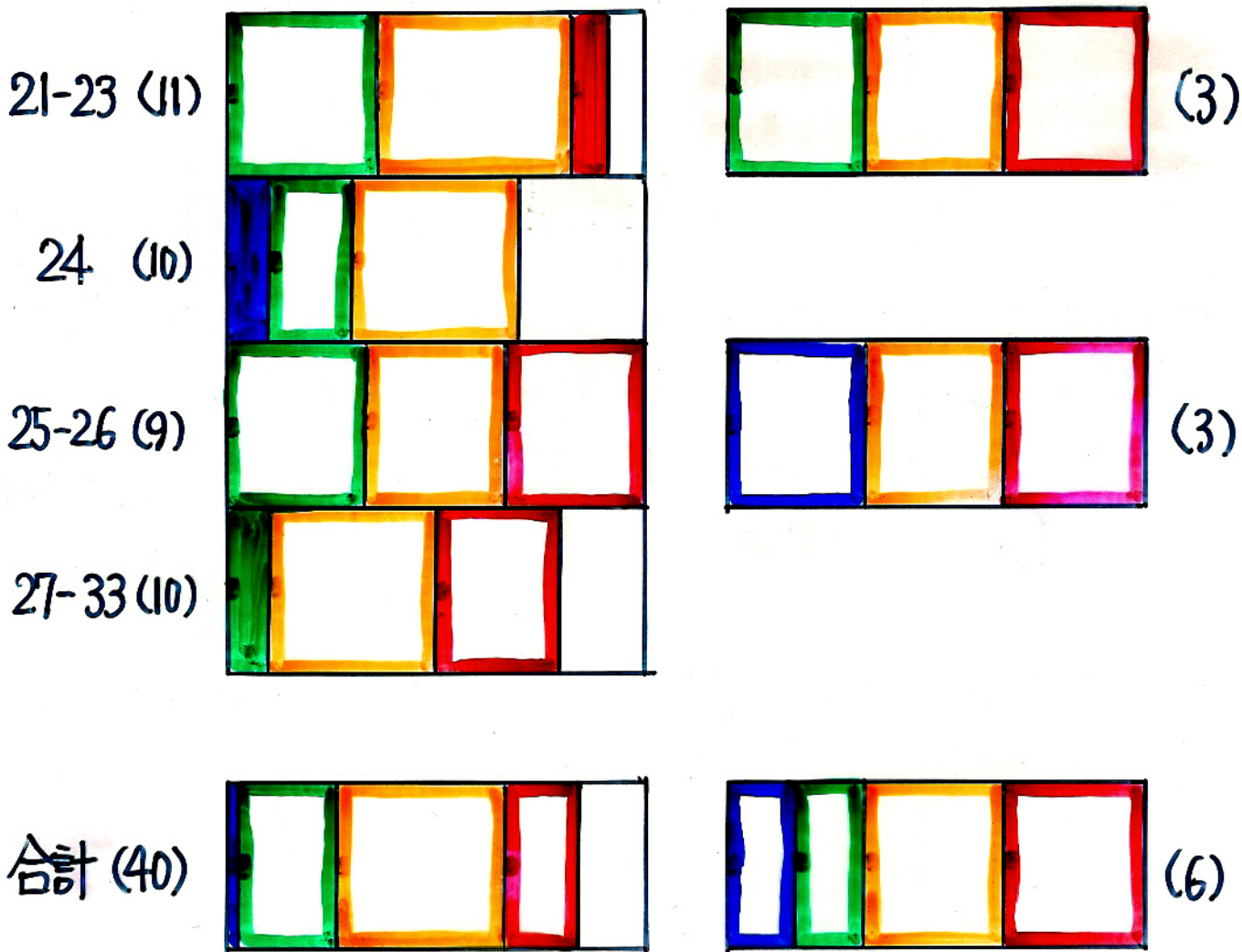
A: する(した) B: 機会があれば C: 多分しない D: しない E: ?

年齢

男性

女性

この下なし



意見の分かれる所
年齢や男女による差はあまりない

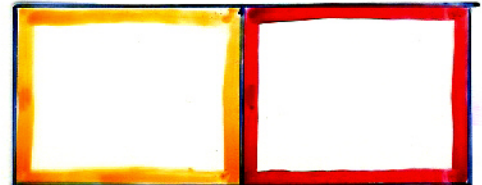
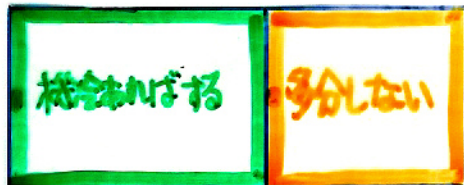
すぐ一般企業などに就職?

学年

男性

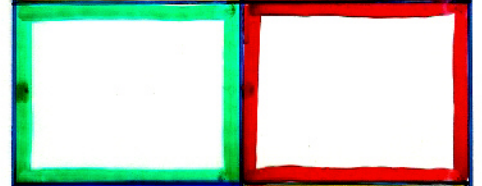
女性

B4-M1 (9)



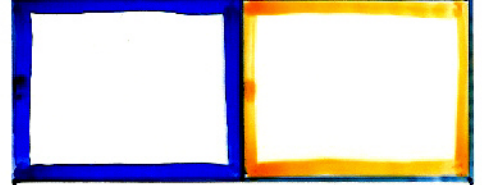
(2)

M2 (12)



(2)

D1-D2 (12)



(2)

D3-OD (7)



意見の分かる所
男女差は小さい

結局、研究継続は
男女どちらが厳しいのか?
(ポストの問題、中絶の圧力)

就職する

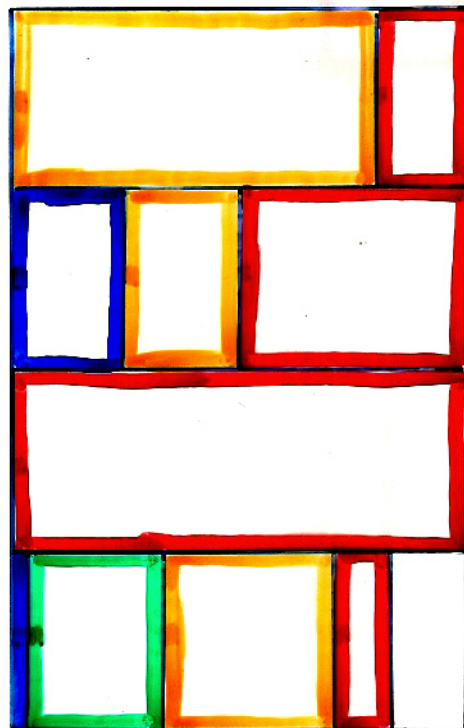
就職しない

合計 (40)



(6)

BIAS大 →



結婚している (5)

近く結婚 (4)

ためらっている (2)

当面予定なし (35)

研究上の地位に
対する不安?

経済的な問題

Q8: 配偶者に労働収入上乘せ期待?

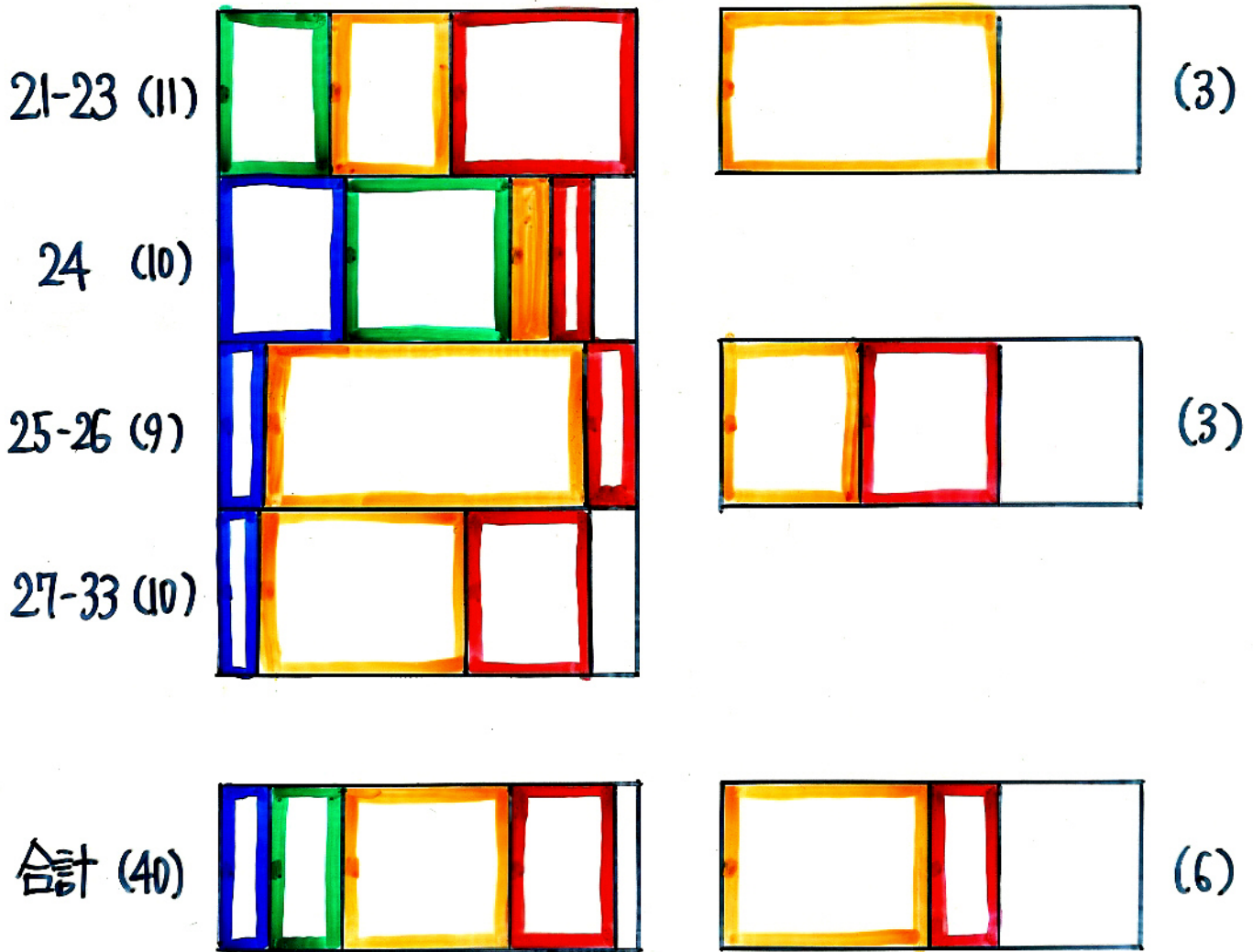
A:大いに期待 B:言にくいが期待 C:おま負担をかける D:負担をかける E:?

この下なし

年齢

男性

女性



既婚者の収入増期待?

学年

男性

女性

B4-M1 (9)

--	--	--

--	--

(2)

M2 (12)

--	--	--	--

--	--

(2)

D1-D2 (12)

--	--	--	--

--	--

(2)

D3-OD (7)

--	--	--

基本的にはこれまで通りで、
逆に言うと、そのまゝの生活でもOKに
なるべく経済力が前提か?

大いに期待

負担が軽い

合計 (40)

	期待	おれ負担が軽い	
--	----	---------	--

--	--	--

女性はやさしい

結婚している (5)

近く結婚 (4)

ためらっている (2)

当面予定なし (35)

Q9: 家計のやりくりは?

結婚している人、近くする人:

- ・奨学金+バイトの組み合わせ
- ・学振など、研究員としての収入
- ・一年後の見通しが暗い、という例が多い
- ・親から援助してもらえる例もある

それ以外の人:

- ・奨学金+バイトの組み合わせ
- ・学振など、研究員としての収入
- ・研究員も短期なので、貯蓄をしておこう
- ・全く分からない

奨学金が10万/月、学振が20万/月くらいなので、
1人奨学金+(1-2)人バイト か、1人学振なら暮らせるか。

Q10: 「結婚するからには…」という外圧には?

A: 悩む、高外圧 B: 悩む、低外圧 C: 少し悩む、高外圧 D: 少し悩む、低外圧
 E: 悩まない、高外圧 F: 悩まない、低外圧 G: ?

11の下のほう

年齢	男性	女性
21-23 (10)		(3)
24 (9)		
25-26 (9)		(3)
27-33 (10)		
合計 (38)		(6)

悩む悩まない、外圧の高低、まさに色々

悩む悩まない、外圧の高低、まじに色々

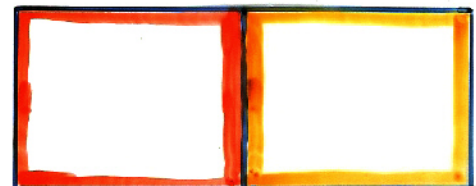
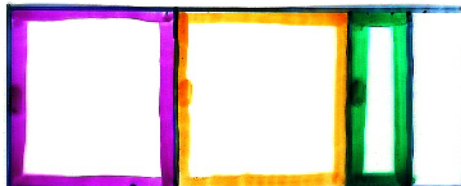
外圧には...

学年

男性

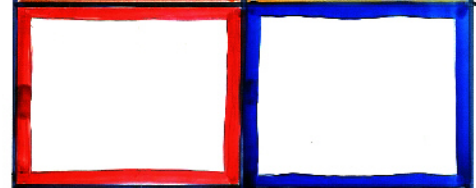
女性

B4-M1 (8)



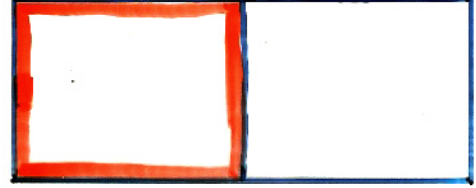
(2)

M2 (11)



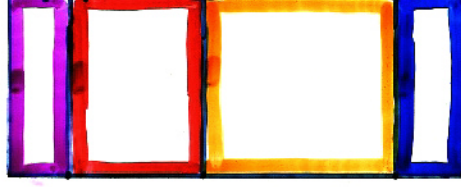
(2)

D1-D2 (12)



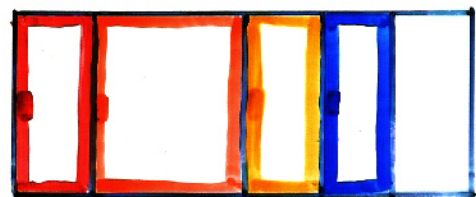
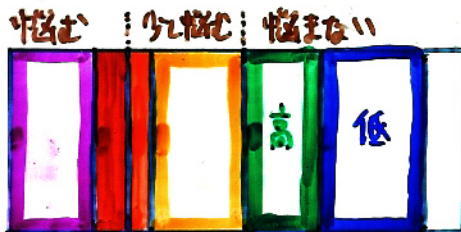
(2)

D3-OD (7)



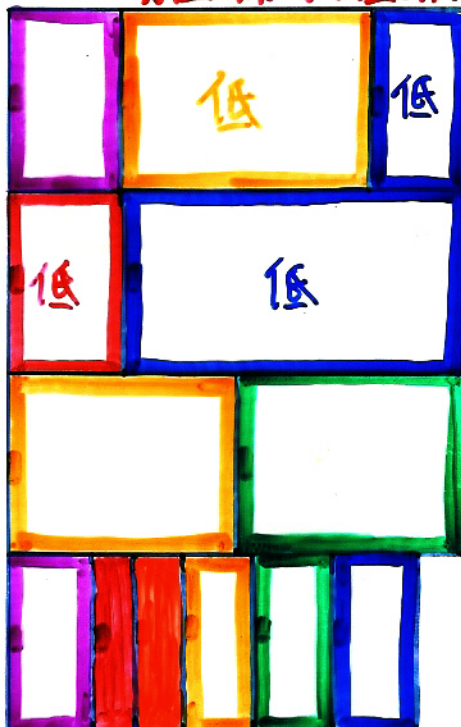
個人個人状況が違っているので、一般論は言えない

合計 (38)



(6)

男性の方がやや悩み大(?)



結婚している (5)

近く結婚 (4)

ためらっている (2)

当面予定なし (33)

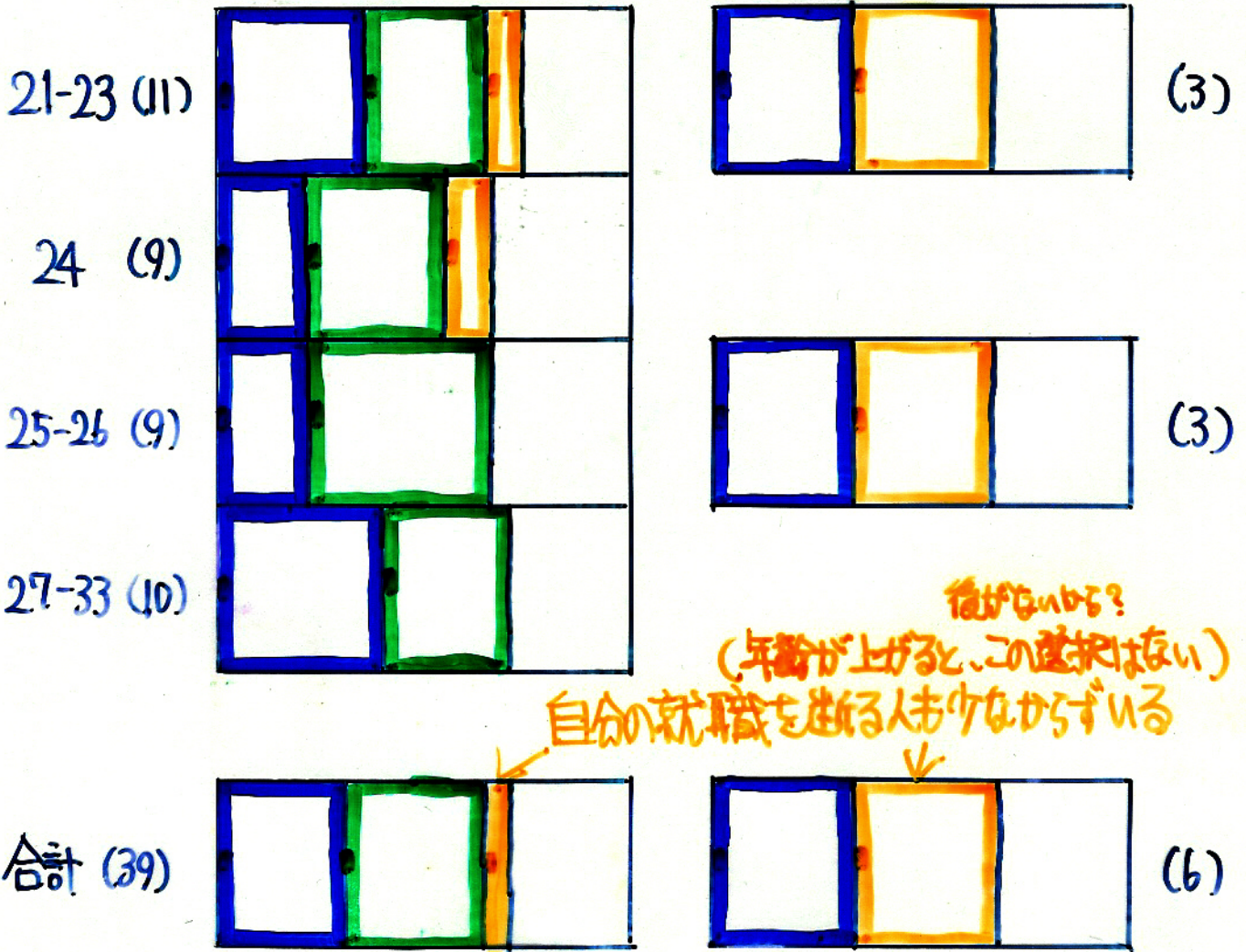
やはり色々ラッキーか。(BIAS有)

同居等の問題 (時間、経済力の問題より深刻) → 出産の問題

Q11: 遠隔地に就職が決まったが、相手は土地を離れにくい。さて?

A: 単身赴任 B: 相手に仕事をやめさせて同居 C: 自分の就職を断って同居 D: ?

年齢



後がないか?
(年齢が上がると、この選択はない)
自分の就職を断る人も少なからずいる

↑
相手に仕事をやめさせておまも引越同居
男性特有、かなりの割合

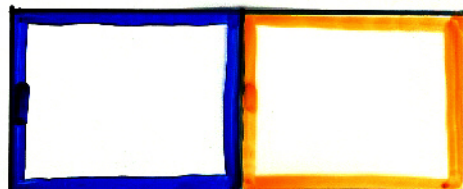
自分が遠隔地に就職してのだが...

学年

男性

女性

B4-M1 (9)



(2)

M2 (11)



(2)

D1-D2 (12)

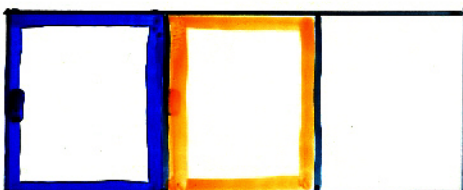


(2)

D3-OD (7)



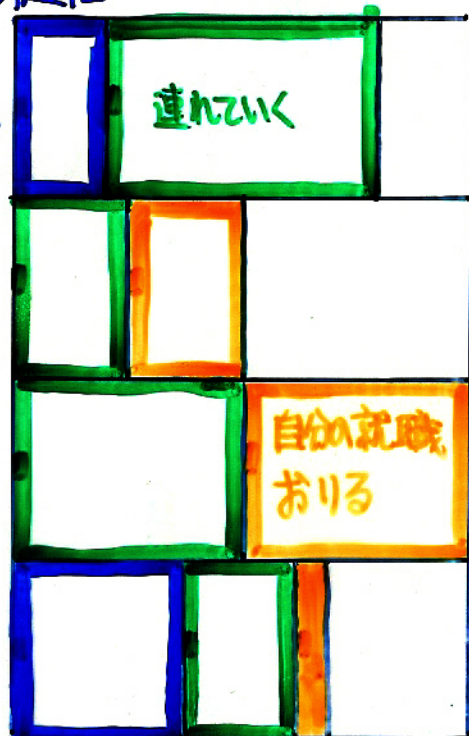
合計 (39)



(6)

単身赴任

(私) →



結婚している (5)

近く結婚 (4)

ためらっている (2)

当面予定なし (34)

「連れ行く」
「就職おける」
が多い。

上半分なし

Q12: 結婚すれば、すぐ出産?

A: Yes B:どちらかと言えばYes C:どちらかと言えばNo D:No E:?

年齢	男性	女性
21-23 (11)		(3)
24 (9)		
25-26 (9)		(3)
27-33 (9)		
合計 (38)		(6)

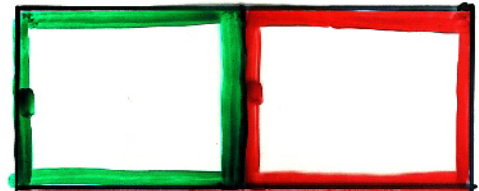
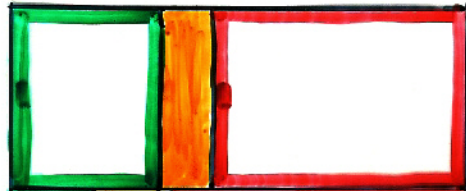
「Yes」が1件もなし。男女による差はあまりなし。
 年齢が上がるほど「No」が増える。厳しい現実に向付くのか.....

学年

男性

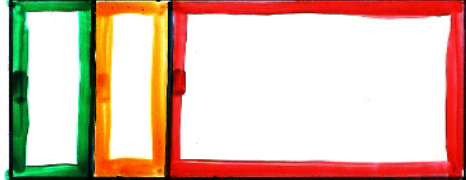
女性

B4-M1 (9)



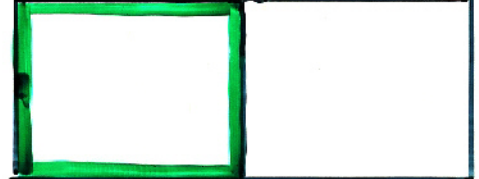
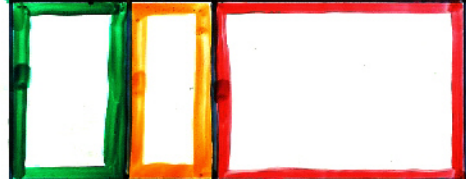
(2)

M2 (11)



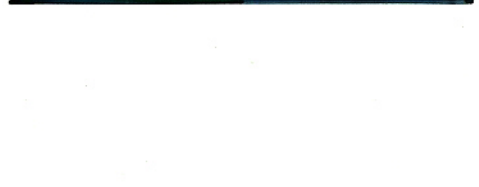
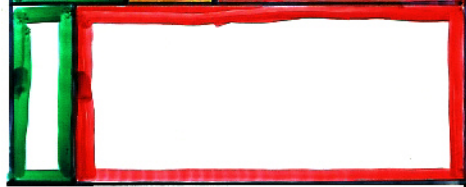
(2)

D1-D2 (11)

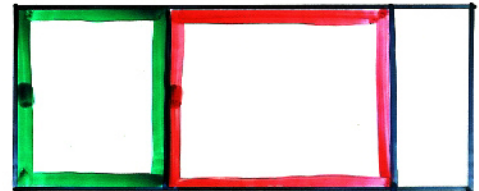
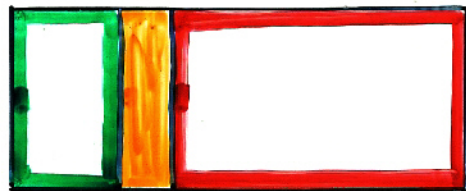


(2)

D3-OD (7)



合計 (38)



(6)

No

No

どちらかといえば Yes

結婚している (5) まだ結婚、子供は
持、という割り切り?

近く結婚 (4)

未婚 (2)

当面予定なし (33)

これが大きな差か?

Q13: その他、自由回答など

結婚している人、近くする人:

- 奨学金の額を既婚未婚で分けて欲しい。
- 自分も相手も同時に学位を取る、などの努力をしなければならぬ。
- 30代半ばになっても長期的同居の見通しがなければ、出産をあきらめないといけない。
- 生活リズムが異なるので、夫婦一緒に過ごす時間がない。

その他の人:

- 安定した収入を得る、ということがまず第一。
- 大学院生時代の結婚は大変だ、と考えることはおかしい。
- 相手を見つけることが、まず大事。
- 不應の妊娠に関する議論も必要。
- 夫婦別姓を考えているが、民法改正がどこかへ行ってしまった。
- 定職でないにしても、同居できる距離に互いが研究の場を持つ可能性が低い。
- 30歳前後は人生の再設計、出産時期という点で重要な時期である。しかし、研究者の人生設計は特殊であり(向上心、貧困耐性、仕事熱心)、この時期に相手と人生の目的意識がずれやすくなる。若手が研究者として生き残れる確率は低く、生涯収入も低い。一方結婚したなら、出産、両親養護など責任も重い。ある程度地位を得てから結婚するか、超人的努力で地位確保、配偶者維持をするか。

パートナー選択と結婚の日本



さいごに

→ 統一理論構築は至難 だが.

周囲の状況も個人個人いろいろ

各項目間の
回答の相関が
低い

考え方も個人個人いろいろ

→ 周囲の理解があるなど
ラッキーだと結婚への入り口も容易

年齢が上がると、独居な手段で同居をしたい、しかし子供はとやまずいらない、という傾向
→ だんだん2人だけの世界にはまていくのか?

年代差や男女差は多少見られる

一番大きな差は、相手に仕事をやめてもらうのを迫るかどうかが、の点

誰か、この種の調査の続きをやりませんか。

世代間の差、他分野との比較、国際比較

↓
IAU Regional Meeting、サラリーの問題

In Taiwan,

Man and Woman are Completely Equal !

A Woman Has to Work as a Man !!

A Man Has to Work as AN ANIMAL !!!